

# 平成 22 年度 第一回 RS 研究会研修会（見学会）報告 ー寿都町～歴史と文化の出会い&子どもたちとのジャガイモ植えー

6 月 5～6 日の日程で、寿都町にて記念すべき第一回研修会を開催した。参加者は老若男女 17 名の旅であったが、天気にも恵まれ有意義な見学会であった。以下に報告する。

＜日程＞ 平成 22 年 6 月 5 日（土）～6 月 6 日（日）

＜場所＞ 寿都町

＜参加者＞

RS 研究会（自然科学教育分科会：11 名、地域主権分科会：1 名）

地域産業研究会（地域活性化分科会：3 名）

家族：2 名

## 行程

### 第一日目

7:20 出発

（JR 札幌駅北口発、地下鉄宮の沢駅経由）

10:30 佐藤家（鯉御殿）見学

12:00 みなとま～れ（昼食）

13:00 寿都小学校ジャガイモ植えサポート

15:10 文化センター見学

16:10 風太発電所見学

17:30 ゆべつの湯にて交流会

## 第二日目

9:00 大谷会館出発

9:10 弁慶岬見学

9:45 瀧山宅ガーデニング見学

畑谷宅前浜見学

10:30 おさかな市見学

12:00 みなとま～れ出発

15:30 札幌駅北口着 解散

## 第一日目

### 佐藤家（10:30～）

最初は、ニシン漁全盛期の頃、歌棄、磯谷地区を管理する「場所請負人」であった佐藤家を、8代目になられる石橋さんの案内で見学した。北海道大学建築学科の調査によると、正確な建築年代は不明とのこと、明治10～20年頃に建てられたのではないかとのこと。当時は役場や郵便局の役割を果たしていたとのこと、入口には郵便局窓口の跡が残る。建物の中では、居間の高い天井にある採光窓、尾形光琳の描いたふすま絵（模倣絵の可能性有り）、当時としてはかなり珍しい磨りガラス等々、とても貴重なものを見学できた。建物の中はとても寒く、冬は冷蔵庫の中のほうが暖かいそうで、今でも住んでいるとのこと。また佐藤家前浜には「袋間」と呼ばれる岩盤を四角く掘った跡があり、船着き場やニシンの一時保管に利用されていたらしい。



佐藤家外観



採光窓。時代の流れが感じられます



佐藤家前浜にある「袋間」



磨りガラス

## ジャガイモ植え（13:00～）

当初予定していたサツマイモが生育不良だったためジャガイモへ変更した。ジャガイモ植えの流れとしては以下の通り。

1. クイズ形式でのジャガイモの説明
2. ジャガイモの植え方の説明
3. ジャガイモ植え作業

ジャガイモの特徴について説明を行ったが、クイズ形式だったこともあり、子どもたちには受け入れられやすかったと思う。サツマイモからジャガイモへ急な変更であったが、うまく対処できていた。



クイズ形式の説明



作業前の授業風景

実際のジャガイモ植えでは、作業の流れだけ指導し、実作業については子どもたちで行った。

うね 畝作り    せひ 施肥    ふくど 覆土（半分）    種イモ植え付け    ふくど 覆土の順で作業を行った。作業の流れは順調で、けが人もなく終了した。

概ね問題はなかったが、参加人数が多かったため土起こしは全員に行ってもらうことが難しかった。また風よけや階段作りは大人が行ったが、防風網の設置や階段作りのくい打ち作業は子どもたちも参加しても良かったかなと思う。若干の危険作業ではあるが、今後の検討課題である。



うね  
畝作り



せひ  
施肥



種イモ植え付け 1



種イモ植え付け 2





覆土



植え付け終了



階段作り。大人の作業でした



作業後の畑と防風網の様子



作業後の集合写真

総合文化センター「ウィズコム」見学（15:00～）

「ウィズコム」では寿都の歴史について見学した。展示されているのは、寿都町で発掘された平安時代の土器類、ニシン漁全盛期の前浜の模型やニシン漁で使用していた漁具類、日常生活品、昔使用された教材や撮影された写真等であった。さらには文化センターのご厚意で非公開展示物まで見学させてもらった。当時の日常品を見て、懐かしい話で盛り上がった。



寿都町で発掘された土器



漁具の数々



非公開展示物の見学

寿都町こどもふれあいセンター見学（15:30～）

次に、ウィズコムに隣接した寿都町こどもふれあいセンターを見学した。この施設はE00の考えを最大限に取り入れた施設で、また「木育」を強く意識し、地域材である間伐材の集成材を建築材としたり、プラスチックを用いない木の玩具を使用するなどしている。また夜間電力を用いた床暖房システム、落ちてもし割れない蛍光灯の使用など、子どもが安心して楽しめる施設として建設されたとのこと。また設計にあたっては、広い空間を意識して可能な限り天井を高くしてもらったとのことであった。



保育園の教室 天井が高いです



木のおもちゃ 1



木のおもちゃ 2



## 風太風力発電所見学（16:20～）

第一日目の最後に、2007 年度から運用されている風太風力発電所を見学した。寿都町が風を資源として始めた風力発電事業で、現在寿都町では全部で 9 基の風車が発電を行っている。今回見学したのはその中でも最も新しい風太風力発電所のもので、2007 年に建設されたうちの 1 基であった。

高さはブレードの最高点で約 100m、ローターの直径は 71m ととにかく巨大であった。ドイツ製で壊れにくくかつ騒音が抑えられた設計になっていると説明があり、ブレード直下で説明を聞いていたが、確かにブレードの風切り音は全く聞こえなかった。年間発電量は 25, 287, 000kWh と 6, 300 世帯の発電が可能で、年間利益 7 千万円を確保しながらも 17 年で元が取れるとのこと。また昨年は 1.5 億円の利益を出したとのこと。風のある町だからこそできる事業であり、寿都町の先見の明に感心した。



佐藤家前浜より見た風太風力発電所



ブレード形状に注目



風力発電の説明を聞く参加者



## 第二日目

### 弁慶岬（9:15～）

第二日目の最初の見学地は、弁慶が同志の到着を待ち続けた伝説が残る弁慶岬であった。岬には弁慶が待つ姿を再現した銅像が建てられており、岬の名前の由来が分かる。海辺には海食に伴って形成された平坦な岩礁が広がっていた。ここの岩礁は凝灰岩（火山灰が堆積して固結したもの）や火山角礫岩（溶岩の断片の集合体と火山灰の混合したもの）と呼ばれる幾重にも重なった地層が見られる。これらから、その昔寿都周辺が海の底であったこと、また海底火山が存在しそれが絶えず噴火していたことが想定される。



弁慶像と灯台



弁慶岬で見られる地層。地層教材に適。

#### 瀧山さん宅ガーデニング見学（9:50～）

雑誌でも有名な瀧山さん宅のオープンガーデンを見学した。広い庭にはびっしりと植物が植えられていた。咲いている花は少なかったが、黄色の花、紫色の花、白色の花と色とりどりであった。かなり名の知れたオープンガーデンらしく、夏には見学者も多く来るようである。お庭を持っておられる方は、是非一度見に行いかれると良いと思う。



瀧山さん宅のオープンガーデン



ビオラ、きれいです。

畑谷さん宅前浜見学（10:10～）

畑谷さん宅の前浜では浅い岩礁が広がっており、佐藤家の前浜で見たものと同じ「袋間」跡があった。現在はそれを利用して小さな漁港となっているようである。周辺は浅瀬であるため磯の生物や地質を観察するのに適していた。ちなみに見つけることができた磯の生物はツブであった。また地質は凝灰角礫岩、凝灰円礫岩を主とするものであった。



畑谷さん宅裏の前浜



磯の生物観察



凝灰円礫岩の露頭



おさかな市見学（10:30～）

第二日目はちょうど寿都町のイベント「おさかな市」開催日で、お土産購入がてら見学した。牡蠣やホタテ、甘エビなど主要海産物の販売はもちろんのこと、たくさんのお店も出店していた。前日にお土産を買いに行った「若狭屋本舗」の人も手伝いで来ており、気さくに声をかけてくれて寿都人の暖かさを感じた。40分の漁船遊覧も行われており、次回のイベントでは是非乗船し、海からの寿都、弁慶岬を見てみたい。



おさかな市での行列



取材陣も来ていました。

## 感想

1泊2日の短い研修会であったが、非常に中身の濃い有意義な研修会であった。ニシン全盛期に建築された歴史ある佐藤家、ジャガイモ植えての子どもたちとの交流、寿都の歴史が全て分かるウィズコム、ECO/木育の意識が強く感じられたこどもふれあいセンター、最新の風力発電施設の風太風力発電所、地質教材になりうる弁慶岬、庭造りの参考書瀧山邸オープンガーデン、海の幸でいっぱいの中島邸前浜等々、見学した箇所全てで興味を持って見学できた。

研修のパンフ作成で寿都町の情報を色々集めたが、その中で今後の見学箇所として思いついたことが何点かある。幌別水力発電所跡や寿都鉱山跡、寿都鉄道跡の見学、母衣月山ほろつきやまからの眺望、月越山脈ブナ林見学、弁慶岬での地質巡等々である。次回が楽しみである。

今回の研修会に当たり、見学施設の対応や交流会を開催して頂いた寿都町の皆様には深く謝意を表す。

文責：人見美哉